

置き丁字油セロイデンで封じキシロールにて固定しパラフィン埋藏法によるのであるが、小生の昆布法は活動して居るゾウリムシを小形ビベットにて吸収し之を昆布の上に置き固定液を以て、固定と膠著とを一舉にして行ふのであるから稀少の標品を製作する上に於て至極便利である。

小生の實驗によると昆布の細胞は非常に粗大で且つ軟であるから切味がよく且デラフィドで著色しても其操作の如何によりては切片した昆布が少しも眼障りにならない、何んとなれば昆布は染色能率が甚だ弱いからである。

又 Plankton の如きものを total preparation として保存する場合にも、昆布を臺紙として此上に標品を置くときは他日必要に應じて切片標品となす機會を得るから何かにつけて便利がある。

本文アメーバ採集及標品製作に對して本校助手東初雄氏を煩はしたることは多大である、茲に同氏に對して感謝の意を表す。

## 麝香鼠の子宮及び膈より發見された一新吸蟲に就いて

尾 崎 佳 正

廣島文理科大學動物學教室

茲に述ぶる吸蟲は鹿兒島第七高等學校教授日野光次氏が、同地産麝香鼠 *Crocidura (Pachyura) coerulea* (KERR, 1792) の胎兒を得る爲めに解剖した際採集された物である。寄生部位が吸蟲としては珍しいもので、子宮及び膈に寄生せる吸蟲は寡聞なる余の未だ聞かざる所である。小生に與へられた材料は酒精漬の三瓶で、各々採集の日附を異にせる點より判斷すると、寄生率も相當あるものの様である。其の内の一つは多數の吸蟲が子宮壁及膈壁に吸著せるもので、蟲體が附著せる模様は林立せる乳頭突起の如くで、本來の壁を見る事が困難なる程である。本吸蟲は *Plagiorchis muris* (TANABE) に似て居るが同吸蟲とは子宮の展開する領域に於て明に區別されるものである。*Plagiorchis* 及び其の他近似の屬との關係に就きては後に述べることにする。

*Opisthioglyphe kinoi* n. sp.

外形 外形は卵圓形を呈して長さ 1-1.4 mm 幅は前峯丸の前縁の部位に於て最も廣くして 0.56-0.65 mm 背腹の厚さは比較的厚く、截片標本に就きて檢するに、横断面は卵圓形を呈して、體の中央部に於て左右徑 6 mm のものに於て背腹徑 3.3 mm。口吸盤は腹面の前端に在り。時に前縁線に接せずして

少しく其の後方に位するものもあるが、多くは口吸盤の前端は體の前縁線に接す。圓くして直徑 0.18-0.22 mm 腹吸盤は體の前端より體長の三分の一の所に在り。其の大きさは口吸盤と略ぼ同大或ひは稍々それよりも大にして直徑 0.19-0.23 mm 體表には小なる棘を密生す。

**消化器** 前咽頭管に無くして咽頭は口吸盤に接して連続す。球形にして直徑 0.1-0.12 mm 食道もなくして腸管は直ちに左右に分岐し、體側に沿ひて後走して體末に近く終る。

**雄性生殖器** 睪丸は二個あり、大にして體の後半部に位置を占む。後睪丸は體の末端に近く存在し、右睪丸に相當するものなるが常に正中線上に在り。前睪丸は後睪丸の前方に在りて、正中線より稍々左側に偏在す。兩睪丸は相接近して存在するも、兩者の間には子宮の迂管を少許介在す。兩睪丸は略々同大にして、全縁の球形を呈するものもあるが、多くは淺き切れ込ありて歪球形を呈す。直徑 0.25-0.36 mm 或ひは 0.25×0.2-0.38×0.25 mm。

生殖孔の開口は腹吸盤の前方にて正中線上に在り。陰莖囊は筋肉質にして、細長く、腹吸盤の右側縁に近く緩孔を描きて、其の後縁よりも稍々後方に達す。長さ 0.23-0.38 mm 幅 0.05-0.07 mm 貯精囊は陰莖囊の後部の三分の二を占め、其前方に少しく離れて攝護腺部あり。直徑 0.02 mm の小なる圓き囊状をなし、其の壁は貯精囊のそれと同じく扁平なる核を有する一層の上皮細胞の薄膜よりなる。攝護腺部に續ける射精管は、厚きキチン質の壁よりなり、迂曲して其の先端陰莖となりて生殖孔に開く。攝護腺細胞は多數にして、陰莖囊の前方三分の一の部分に於て攝護腺部及び射精管の周圍を満たし、時には貯精囊の前半部の周圍にも見らるる事あり。陰莖は屢々生殖孔より突出せるものあり。

**雌性生殖器** 卵巢は正中線よりも右方に偏在し、腹吸盤に殆んど接して其の後側方に在り。球形にして直徑 0.15-0.22 mm 輸卵管は卵巢の背面中央部より後方に向て發し、卵巢の後縁の部位に達して背方に小なる盲管(長さ 0.04 mm)を出す。此の盲管は精蟲を満たし受精囊の痕跡と思はる。次で LAURER'S canal を分出して後方に向ひ、やがて前方に轉じ更らに右方且つ後方に向ひ卵黄輸管を受けて、卵殻形成腔となる。LAURER'S canal は卵巢後縁の部位に於て、體正中線に近く背面に開口す。卵殻形成腔は 0.06×0.03 mm の大きさを有し、此の部に多數の卵殻腺の開口するを見る。卵殻形成腔に續ける部分は子宮なるが、子宮の始部は精蟲を多數貯へ、子宮受精腔となつて居る。子宮は迂曲して前睪丸の右側に出で、兩睪丸の間に出で返轉して再び前睪丸と卵巢の間を通りて前睪丸と腹吸盤の間に出で、終に metraterm となりて腹吸盤の背側を直走して

生殖孔に開口す。metraterm は陰莖囊に並行して其の背側を走れる事あり、又陰莖囊と反対の側を走れる事もあり。其の長さは陰莖囊の長さの約半にして、少々厚きキチン質の壁よりなり、其の周囲には腺細胞の發達せるを見る。卵は黄色にして、子宮の末部にあるものは少々褐色を帶ぶ。大さ長さ 0.033-0.036mm 幅 0.02-0.021 mm。

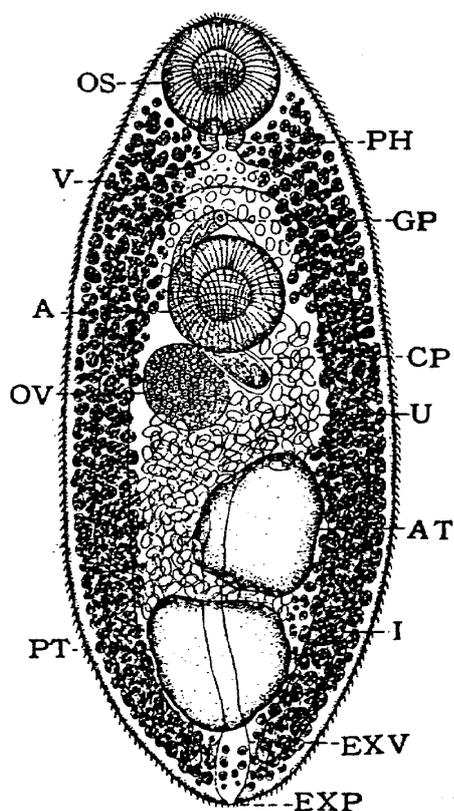
卵黄腺は胞状にして夥しく存在し、腸管の背腹面竝に外側に在り。前方は口吸盤、時としては最先端に達し、後方は體末に達す。腹吸盤より前方に於ては左右のもの背側に於て相連る。

排泄系 排泄囊は Y 字形にして背側に在り。排泄孔は體の末端に在り。排泄囊の主幹は睪丸の背側を前方に走り、卵殼腺の後方にて左右の二枝に分岐す。

分岐枝は短くして、斜に前側方に向ひ、卵巢後縁の高さに漸く達す。

論議 本吸蟲は外觀 *Plagiorchis muris* (TANABE) に類似す。然れども同種にありては子宮は兩睪丸の間を通りて後睪丸の後方に出で、然る後反轉して生殖孔に向ふものなるが、本種に於ては余が五十餘の標本に就きて檢した結果に見るも、子宮が後睪丸の後方に出づるものは一も無し。故に子宮の分布領域よりして本種は *Plagiorchis* 屬に屬すべきものにあらざる事を知る。本種に最も近似せるものを已知の種に求めて余は Looss 氏が 1908 年 *Opisthioglyphe* 屬に入れたる *O. rastellus* (OLSS 1878) Looss 1907 を得た。同種は前咽頭管、食道極めて短く、腹吸盤の後方に達する陰莖囊を有し、子宮は後睪丸の前縁迄達し本種に酷似す。本種と異なる點は本種に比して睪丸が著しく前方にある點なりとす。*O. rastellus* を *Opisthioglyphe* 屬の type species *O. endolobum* に比するに、後者に於ては食道長く、陰莖囊は全く腹吸盤の前方に在りて、子宮は全く前睪丸の前方に在るに對して、

前者にありては食道極めて短く、陰莖囊は長くして腹吸盤の後方に達し、子宮は前睪丸の横を通りて後睪丸の前縁の部位に達す。余は *O. rastellus* は將來



*Opisthioglyphe* (腹面圖)

A 腹吸盤	OS 口吸盤
AT 前睪丸	OV 卵巢
CP 陰莖囊	PH 咽頭
EXP 排泄孔	PT 後睪丸
EXV 排泄囊	U 子宮の卵
GP 生殖孔	V 卵黄腺
I 腸管	

*Opisthioglyphe* 屬より分離さる可きものと思ふ。*O. hinoi* に於ては子宮は更らに兩峯丸の間迄伸展し來りて *Plagiorchis* 屬への移り行きを示して居る。*Opisthioglyphe* 屬の所屬は多くの人の疑問とする所であるが、以上述べたる如く同屬内の種の間にて子宮伸展の種々なる段階が見らるるにて、子宮が未だ後方に伸展せざる *Plagiorchis* と認むべきもので、やはり *Plagiorchiidae* に屬すべきものと思ふ。排泄系に於ても本種に於て見たる如く *Plagiorchiidae* に一致するものにして、余は Looss 氏の卓見に敬服するものである。

On a New Trematode *Opisthioglyphe hinoi*,  
parasitic in the Uterus and Vagina of  
*Crocidura caerulea* (KERR)

By

Yoshimasa OZAKI

Zoological Institute, Literature and Science College of Hiroshima.

*Opisthioglyphe hinoi* nov. sp.

Body oval, 1-1.4 mm long by 0.56-0.65 mm broad. Skin with delicate spines. Oral sucker subterminal, 0.18-0.22 mm in diameter; acetabulum 0.19-0.23 mm in diameter, one third of the body length from anterior end. Prepharynx and esophagus absent; pharynx 0.1-0.12 mm in diameter; intestinal caeca extending to the posterior end of the body. Genital aperture median, anterior to the acetabulum.

Testes globular or slightly lobate, one obliquely behind the other, in the posterior half of the body. Cirrus pouch 0.23-0.38 mm in length, extending from the genital pore to the central level of the ovary.

Ovary globular, situated behind the acetabulum, on the right side, smaller than testes. Shell gland an ill defined loose aggregate of cells close to caudal aspect of ovary. Receptaculum seminis rudimentary. LAURER'S canal present, opening dorsally and posterior to ovary. Initial part of uterus forming a receptaculum seminis uterinum. Uterine coils extending to the anterior level of the posterior testis, sending a few coils between the two testes. Vitellaria made up of small follicles on external, ventral and dorsal sides of the intestinal caeca, extending to the both extremities, coalescing in the median line in the neck region. Uterine eggs 0.033-0.036 mm by 0.02-0.021 mm.

Excretory system in form of a Y; paired limbs unite behind the shell gland; main stem tubular; pore at posterior end.

Habitat. Uterus and vagina of *Crocidura (Pachyura) caerulea* (KERR, 1792).

Locality. Kago-hima, Kyushu, Japan.

Type specimen in the Zoological Institute, Literature and Science College of Hiroshima, Japan.

## 文 獻

- BRAUN, M. 1902 Fascioliden der Vögel. Zool. Jahrb., Syst., XVI, 1-162, tab. 1-8.
- FUHRMANN O. 1928 Trematoda in Kükenthal's Handbuch der Zoologie Bd. II. Lieb 3 Teil 2. P. 1-128.
- HOLL, F. J. 1928 A new Trematoda from the newt *Triturus viridescens*. J. Elisha Mitchell Sci. Soc. Chapel Hill. 43, 181-183. Pl. XXVII.
- JOHNSTON, S. J. 1916 On the Trematodes of Australian Birds. Proc. Royal Soc. N.S. Wales. L 214-218.
- LOOSS, A. 1899 Weitere Beiträge zur Kenntniss der Trematoden-Fauna Aegyptens, Zugleich Versuch einer natürlichen Gliederung des Genus *Distomum*. Zool. Jahrb. Syst., XII, 521-784, tab. 24-32.
- LUHE, M. 1899 Zur Kenntnis einiger Distomen. Zool. Ang., XXII, 524-539.
- NICOLL W. 1909 Studies on the Structure and Classification of the Digenetic Trematodes. Quart. Journ. Micr. Sci., 53, 391-487, tab. 9-10.
- ODHNER 1910 Nordostafrikanische Trematoden, grössenteils vom Weissen Nil. in Results of the Swedish Zoological Expedition to Egypt and the White Nile 1901 under the Direction of L. A. Jägerskiöld, Part IV, Nr. 23 A.
- POCHE, F. 1926 Das System der Platoria. Arch. Naturg., XCI, 1-458, 7 pls.
- SKRIABIN, K. I. 1923 Sur la faune des trématodes des oiseaux de Transbaikalie. Ann. Parasitol. VI, 80-87, 2 figs.
- STILES, C. W. 1901 A Discussion of Certain Questions of Nomenclature, as applied to Parasites. Zool. Jahrb. Syst., XV, 157-208.
- 田部浩 1922 複殖吸蟲類發育史知見補遺、一新吸蟲 *Lepoderma muris* n. sp. の研究、岡山醫學會雜誌 第 385 號 1-12, pl. 1.